

「この夏」

高校33回 大島 真寿美

直木賞を取ると半年くらいは記憶がなくなるくらいに忙しい、という噂は、文芸業界になんとな〜く浸透していて、様々なオモシロ逸話には事欠かないのですが、とはいえ、まさか、ほんとにこれほど忙しくなるものだとは、実際、受賞するまでは、思っておりませんでした。いやー、あれは大袈裟な都市伝説などではなく、リアルな噂話だったのですね。

というくらい目まぐるしく、慌ただしく、とてつもなく忙しい、怒涛のような夏が過ぎていきました。（って、秋になってもまだまだ忙しさは続いているんですけどね！）

私は小説家なので、書く仕事の基本です。書くことだけなら、どれほど忙しくとも、それほどダメージは受けないのですが、今回は外での仕事が多くて、それもかなりタイトなスケジュールだったりもして、酷暑のなか、全てやり遂げるのは、かなりきつく、本気でへとへとなりました。

で、その苦手な外での仕事の一つが、サイン会だったのですが（東京、大阪、名古屋の三都市で開催）、驚いたことに、どこの会場でも、「昭和高校の出身です」「昭和高校に息子が通ってました」なんておっしゃる方が、つぎつぎ現れるのです。「やほー」と気軽にやってきた同級生の友達も、もちろんいましたが、もっとずっと年上の先輩方、お会いしたこともない昭和高校関係者の方々が、わざわざ私のサイン会に足をお運びくださり、私の直木賞受賞をととても喜んでくださるので、「昭和高校」「昭和高校」って、「昭和高校」を連発して、おまけに「誇らしいです」なんておっしゃってくださったりもして。

いやいやいやいや。

ちょっと待って。待って、待って、待って！ 私、ダメダメ昭高生だったんですけど！

なんにもできないから小説書いてただけなんですけど！

と面と向かって言うのもなんなので、心の中で、こんなやつですみません、とお詫びしながら、肅々とサインをさせていただきました。

それにしても、昭和高校って！ 昭和高校って！ 愛されてるんですね。と、つくづく感じ入った次第です。卒業して何年経とうと、昭高生は昭高生なんだな〜。

そうして、かくいう私も昭高生だったんだよな〜。とあらためてしみじみ思わずにはいられない今年の夏だったのです。